



ホテル・ウェディング最前線

ホテル・ウェディング最前線

観光立国をめざして

観光立国をめざして

鈴木ゼミ&クラブメンバーblog

鈴木ゼミ&クラブメンバーblog

こちら大阪観光大学です！

こちら大阪観光大学です！

観光学入門

観光学入門

観光学オピニオン 2004

観光学オピニオン 2004

KIXの泉

KIXの泉

ホテルという仕事

ホテルという仕事

観光学オピニオン

観光学オピニオン

素敵な旅をしよう

素敵な旅をしよう

2004年

2004年

2003年

2003年

◀ HOME

▶ 特集

▶ ブログ

▶ バックナンバー

鈴木ゼミ日記ブログ
観光立国をめざして



観光学部教授 鈴木勝

元JTBアジア日本支社長の経験をいかし、観光業界のリアルな問題とその解決方法、アジア太平洋地域の観光促進について研究している。

カレンダー

2008年09月

	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

カテゴリー一覧

- [観光・観光学全般](#)
- [観光学・観光教育](#)
- [観光・旅行産業](#)
- [関西空港](#)
- [観光政策（外国）](#)
- [海外旅行（日本人&外国人）](#)
- [訪日外国人・日本人（一般風景）](#)
- [観光政策（日本）](#)

アーカイブ

- [2008年03月](#)
- [2008年02月](#)
- [2008年01月](#)
- [2007年08月](#)
- [2007年04月](#)
- [2007年03月](#)
- [2007年02月](#)
- [2007年01月](#)

2006 г.
Японский центр в Санкт-Петербурге
Пути развития международного
туризма
На примере методов, ориентированных
на японский рынок
Масару СУДЗУКИ
профессор факультета туризма
осакского университета Майдэ

ロシア人への「観光学」ご進講

この2年ほど、今までまったく縁がなかったロシア人との接触が多くなってきました。

大学教授になる前、旅行会社に勤務しかなりの国々に行った経験はありましたが、ロシアには全くチャンスがなかったのです。もちろん、日本サイドでもロシア人とのビジネスは皆無でした。

これが、この2年、訪日のロシア人観光研修チームの講師やコーディネーターを引き受ける機会にたびたび巡り合うようになりました。

今回はロシアの古都サンクト・ペテルブルグに行くことになりました。50名ほどのロシア人観光関係者に、3日間の集中講義を行い、アエロフロート・ロシア便で昨日、成田空港に帰ってきました。[主催：外務省関係「サンクト・ペテルブルグ日本センター」(所長山本博志氏)]

一昨日の朝の温度は、「ロシア人もサムイ、サムイ」と連呼するほどの気温・零下20度でした。

(サンクト・ペテルブルグは夏場には世界中の観光客がやってきて大賑わいですが、冬場は全くの閑古鳥状態。その時期に観光関係者を集めて研修会を開催することは納得。しかし、講師は大変？です)

講義タイトルは、
「国際観光振興の手法」

—日本マーケットへのアプローチを中心として—

メインは「いかに、ロシアは世界から観光客を招くことができるか？」
・・・国際観光振興の手法や世界の観光立国の事例を多く挙げて説明、後半は、日本マーケットを細かく説き、「こうすれば多くの日本人観光客がやってくる」を講義した次第です。

ご参考までに、3日間の“目次”をご紹介します。

<目次>

1. 世界的な観光活性化と国際観光の現状
 - 1) 世界的な観光交流の現状
 - 2) 国際観光の発展理由
2. 国際観光の重要性と効果
 - 1) 経済的側面
 - 2) 社会文化的側面
 - 3) 自然環境的側面
3. 国際観光振興の具体的手法
 - 1) 「観光インフラの整備」

- [2006年12月](#)
- [2006年11月](#)
- [2006年10月](#)
- [2006年09月](#)
- [2006年08月](#)
- [2006年07月](#)
- [2006年06月](#)
- [2006年05月](#)
- [2006年04月](#)
- [2006年03月](#)
- [2006年02月](#)
- [2006年01月](#)
- [2005年11月](#)
- [2005年10月](#)
- [2005年09月](#)
- [2005年08月](#)
- [2005年07月](#)

最近の記事

[大阪観光大学19年度卒業生と共に、“SAYONARA”いたします。](#)

[ゼミ卒業旅行「カニかにツアー」](#)

[円安&ビジット・ジャパン・キャンペーンVJC](#)

[「株式新聞」にビジット・ジャパン・キャンペーンVJC登場！](#)

[「北東アジア国際観光フォーラム」開催！](#)

[「ミシュランガイド東京2008」](#)

[「観光から見た北京オリンピック」\(その2\)](#)

[「観光から見た北京オリンピック」\(その1\)](#)

[「韓国政府の“粋な”中国人誘致戦略—こんなビザ免除作戦—」](#)

[観光・世界競争ランキングく番外編](#)

- (1) ハード・インフラの整備
 - ・ ホテル・航空・空港 ・道路網・交通機関
 - ・ ショッピング・テーマパーク・レストラン
- (2) ソフト・インフラの整備
 - ・ 言語表示・ガイド・ホスピタリティマインド
 - ・ 観光教育・安全・危機管理システム
- 2) 「国際観光関係者の振興手法」
 - ・ 政府および政府観光局・航空会社・旅行会社・ホテル
- 4. 「日本マーケット研究」①日本人海外旅行の現況
 - 1) 日本人海外旅行の実態
 - 2) 日本人の海外旅行の志向
- 5. 「日本マーケット研究」②「旅行会社」(経営・販売手法)
- 6. 「日本マーケット研究」③旅行業マーケティング
 - 1) 顧客ニーズと商品企画
 - 2) テーマと商品企画
 - 3) 商品が出来上がる仕組み
 - 4) パッケージ・ツアー以外の主な旅行商品
 - 5) 旅行商品の具体的内容
 - 6) 旅行商品と流通・収益構造
 - 7) 日本の添乗員
- 7. 安全・危機管理システム「観光産業の危機管理」
- 8. CS(顧客満足度)・ガイド教育・ホスピタリティ・旅行業法
- 9. 情報発信と観光統計
- 10. 「日本マーケット研究」④訪日外国人(インバウンド)旅行
- 11. まとめにかえて「日本の観光/観光産業とロシア」
 - 1) 「日露観光交流の課題と解決策」
 - 2) 日本マーケットへのアプローチ手法

<PART 1> (1-3) では、世界、特に経験からアジア太平洋地域の国々の事例(成功&失敗)を多く紹介しました。

<PART 2> (4-9) では、日本観光マーケットに焦点を置いて、具に検討しました。これは、「いかにすれば多くの日本人がサント・ペテルブルグ&ロシアを訪問するようになるか？」の研究編。

<PART 3> (10) では、近年スタートした、ビジット・ジャパン・キャンペーンVJCの説明。日本の訪日外国人の受け入れ態勢の最近の変化とともに、ロシア観光関係者にとっての日露観光交流における、今後のビジネス・チャンスなど。

上記に加えて、まとめ(11)は、日露観光交流の現状・問題点・将来

本センターは、パワーポイント&教材テキストの完全なロシア語訳をやり、講座開始日に全員に配布しました。

パワーポイント66ページ&教材テキスト78ページ：一カ月前に、ロシアに送付そして翻訳・・・こんなに日本の観光産業の内部に関して紹介されたロシア語のテキストは、他にはないのではと思っています。

それ以上に、なんとといっても、3日間の拙い講師を援助してもらったのは、**流暢な通訳のアレクサンドル・ゲルツエフ氏（露日友好協会理事）**でした。

あらためて、この場を借りまして「Спасибо スパシーバ」。

ところで、登録されたロシア人メンバーを見てみましょう。旅行会社（アウトバウンド、インバウンド、ランドオペレーター）、ホテル（外資系・民族系）、バス会社、観光ガイド、通訳・・・の一般の観光関係者。

これら以外に、異色の方々が多くいます。警察官6名、警備保障会社社長、市政府、商工会議所、IT会社、大学教授（観光学科・東洋史科）、経営コンサルタント（レストランetc.）、美術館・博物館・・・

このようにカラフルなメンバーが揃ったのは、「国際観光を振興するには、観光産業者だけでは活性化しない、海外からの観光客に接するすべての人々はその気にならなければならない」・・・と観光振興の極意を知りつくした山本所長のご尽力がありました。

また、観光講座開始日の挨拶は、在サンクト・ペテルブルグ日本国総領事の城所卓雄氏によって行われたことは、日本の国際観光の両面を訴えかけるのに、時機を得たものでありました。

さて、長くなりましたので本日の締めくくりの意味で、今回の観光学セミナーの感想を・・・。

その1) ロシア人の国際観光を取り巻く関係者の熱意は、かなりのものであること。質問内容もかなり高度化されたものです。質問に窮した時もありました。この種のセミナーを継続する必要性を強く感じました。

(なぜなら、セミナー会場から、一歩外に出た場合、例えば、モスクワ空港でのトランジットは観光客に優しくなっているのでしょうか、サンクト・ペテルブルグ市内を個人旅行客がぶらつくことが出来るように、ロシア語以外に英語のサインがあるのでしょうか・・・)。

その2) 日本のビジット・ジャパン・キャンペーンVJCへの提言。

このキャンペーンが始まって3年目。いまだに日本における国際観光の振興セミナー&シンポジウムの種類に関して、こんな形式が多く見られます。

世界各国の観光関係者（主に、政府観光局）を招待して15-20分ほどの各国観光事情の紹介、そしてその後、簡単なシンポジウム。キャンペーンが始まって、すでに3年。現段階は、主要マーケット毎に関して徹底的に、討論&研究すべき段階なのではないでしょうか。

例えば、「韓国人」、「中国人」、「アメリカ人」、「オーストラリア人」などの主要マーケットの観光プロフェッショナルから、2-3日間の集中講義を受ける・・・日本の外国人誘致戦略セミナー・研究会も、こんな段階に来ているのではないのでしょうか？

それから、もう1つ。日本での国際観光振興セミナーの参加者。ほとんどが直接的な観光関連者ばかり。もっと拡大すべきでありましょう。

日本の警察官はどうでしょうか。空港のC I Qの担当官は？（Customs：税関、Immigration：出入国管理、Quarantine：検疫）。タクシーの運転手は？博物館&美術館は？IT企業は？

ロシアの国際観光に関してはまだまだ述べたいことがあります。続編を来週に。こんなタイトルで考えています。
「ロシアは観光大国になれるか？」

本日の写真：今回の講義用テキストのロシア語表紙。
日本語では・・・、

2006年 日本センターサンクト・ペテルブルグ「観光講義」
『国際観光振興の手法
ー日本マーケットへのアプローチを中心にしてー』
大阪明浄大学観光学部・教授 鈴木勝
・・・のようです。
私はところどころしか、わかりませんが・・・。

Posted by 鈴木 勝 at 15:34 | [観光学・観光教育](#)

▲このページのトップへ